

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | グループホームとしての役割を基に、会議等において定期的に話し合い、法人、高齢者部門各事業所の理念をスタッフ間で共有し、実践に活かせるよう努めている。 | 法人、母体の特別養護老人ホーム、グループホームの各理念をホールに掲示し来訪者に分かるようにしている。理念については月1回の会議の席で共有を図っている。理念にそぐわない言動が見られた場合には個人面談を行い実践に向け取り組んでいる。家族に対しては利用契約時に重要事項説明書と同時に説明している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 定期的なボランティアの来訪や、併設施設の一部を提供し、地域住民の方々と一緒に交流できる場を設けたり、地域活動への参加など定期的に取り組んでいる。 | 法人として区費を納め活動している。区主催の「お茶の間サロン」には3～4名の利用者が参加している。また、育成会の行事では子供とのふれあいを楽しみ、文化祭には「はり絵」等の作品を出品している。更に、ホームの敬老会には地区の役員の方が来訪している。行事に合わせ、歌、マジック等のボランティアが来訪し利用者との交流を深めている。警察学校の奉仕活動で10名ほどの学生が数回に渡り、掃除、草取り等で来訪し、地区の中学生も10名位で窓拭き等の奉仕活動に来訪し交流の場を持っている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 交流や会議等を通しての啓発や勉強会の他、入居等の相談に来られた方々への助言や指導等を行っている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 日々支援しているサービス内容等の報告をし、ご家族、地区住民の方々から率直な意見、要望等聴取し、後のサービス向上に努めている。 | 奇数月の第3月曜日に家族、区長、自治消防団長、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員などが出席し開催している。併設の特別養護老人ホームやデイサービスセンターと合同で行い、現状や活動状況の報告、事業計画や事故の報告などの後、意見交換等が行われ運営の向上に役立っている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議や訪問、指定更新や実地指導等を通して相談事や情報交換、指導、助言をいただきながら関係構築に努めている。 | 市介護保険課には事故報告等を行い必要に応じ様々な相談をしている。あんしん(介護)相談員が月1回、約2時間来訪し利用者や家族と相談し口頭にて報告をいただき支援に役立っている。介護認定更新調査は家族に連絡の上調査員が来訪しホームにて実施している。市主催の研修会にも積極的に参加している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 会議や研修等を通じて、身体拘束における基準、リスク等を定期的にスタッフ間で話し合っている。認知症における様々な症状への対応を検討、模索し、都度生活の質を確保できるよう努めている。 | 玄関はセンサー設置で日中開錠している。離脱傾向の強い方が数名いるが、ほぼ毎日外へ出て話をしながら散歩をし職員も優しく寄り添い対応している。所在確認は利用者の特徴と行動パターンを掴み、情報を共有し安全の確保に繋げている。転倒防止を図るため家族と相談しセンサーマットを使用する方がいる。法人内の権利擁護委員会やホームの会議で身体拘束について話し合い、拘束のないケアに取り組んでいる。 | |

グループホーム柳島爐

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 委員会や研修、会議等様々な事例を基に話し合っている。スタッフ個々と面談の場を設け、日常のケア提供状況の確認や相談、助言等行い、虐待に対する意識改善に努めている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修への参加や関係者、スタッフ同士の話し合いを通して学ぶ機会を持ち、個々に必要がある場合等に関しては相談、助言等行っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 電話による対応や施設見学等事前の相談、面談を行いながら契約につなげている。入居後先々を見据えた説明をし、理解して頂いている。改定時も書面にて説明し、同意を得ている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議や家族会、面会時等を利用して意見要望等対話しやすい雰囲気作りを努めている。また、あんしん相談員の方や他事業所の交流の機会を活用し、意見等聴取。内容を会議等で話し合っている。 | 生活歴を家族から細かく聞き利用者の希望に沿った支援に取り組むように心掛けている。家族会は年2回敬老会と忘年会時に行われ、総会の後の食事会で、職員とボランティアの出し物等を楽しみ、利用者や家族、職員の交流に繋げている。また、年4回発行される家族会会報「いこい」は家族会が携わって発行され、家族会活動の積極性が窺える。利用者個々の状況もお手紙に行事等の写真を添え随時報告され家族に喜ばれている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 個々の面談等にて意見を聴取し、まとめた内容を基に各会議等にて話し合い、検討しながら業務に反映させている。 | 月1回全体会議が行われホームの運営全体、改善事項等について話し合っている。また、月2回ユニット会議を行い利用者の支援について話し合い、ケアの向上に繋げている。人事考課制度があり年2回、自己評価を行い、介護課長による個人面談も行われ様々な意見を汲み上げ業務の向上に繋げている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 定例会議を通して、各管理者と話し合いの場を設けている。また、研修等を通して各スタッフからの意見や相談を聴取し、職場環境の改善に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 管理者との定期的な会議等により話し合い、スタッフ個々に応じた研修計画をたて、それぞれの参加を実施している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同業者との情報交換や訪問等適宜行い、話し合いを通じて様々な情報を取り入れながらサービスの向上につながるよう取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 事前面談を行い、入居に向けての話し合いを行っている。要望や相談事項、不安な事を聞き取り、対応に向けて取組んでいる。また、各関係機関からも様々な情報を聴取し、本人の支援に反映できるよう努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 本人と一緒に、または必要に応じて個別に事前面談を行っている。意向や要望、相談等に耳を傾けながら話し合いをし、より良い関係作りに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 事前の面談時、双方の相談事項等を傾聴し、要望、意向等全般を勘案しながら様々な方向性を提示し、より良い支援につながるよう努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 入居前の生活状況を把握し、一人ひとりの嗜好や生活スタイルに沿った支援が出来る限り対応できるようスタッフ一緒の生活の場を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族へは本人の生活状況を定期的に報告、連絡し、どのように暮らしているか把握してもらっている。本人の意向や希望など支援への反映については家族とも相談し、協力体制を築けるよう努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 親族、知人等自由に面会してもらったり、家族の協力も得ながら、また、スタッフとの不定期な外出など様々な思い出との交流を絶やさないう努めている。 | 友人、知人の来訪が継続してある利用者が三分の一ほどいる。基本的に居室で寛いでいただくが一度に多くの来訪がある時もありホールでお茶をお出しし接待している。友人より手紙や電話が来る利用者もおり、馴染みの関係が継続するよう取り組んでいる。買い物は希望により馴染みの店に職員がお連れしている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関係が途切れないよう、支援に努めている | 利用者同士の関わりを大切にできるようにスタッフ間で常に状況把握や情報共有し合い、食卓の配置や様々な活動を通して交流が図れるよう努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 利用が終了してからの生活状況を把握、確認しながら必要に応じて情報提供をしたり、相談にのれるよう努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人の思っている事や希望等を聴取、または日々の生活からも汲み取りながら支援に活かせるように努めている。各会議等でも話し合い、様々な視点から検討している。 | 現在言葉で意思表示の出来る方は半数弱で、行動や表情で確認できる方が三分の一、四分の一の方が難しい状況である。過去の生活歴を参考にすることと日々の支援の中では基本的に笑顔で優しく寄り添いきめ細かく話し掛け利用者の意向を汲み取るよう心掛けています。遠慮がちな方もいるが1対1で外へ散歩に出掛け、気軽に話しかけることで希望を汲み取っている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前面談にて事前聴取を行った把握内容を基に、日々の生活支援を提供している。事前に把握しきれていなかった点や、生活の中からの検討事項など本人や家族と話し合いながら把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の生活から本人の様子を観察、把握し、スタッフ同士共有しながら本人の自立に向けた支援が提供できるよう努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 日常生活の様子を観察、課題を抽出し、各会議体において話し合った内容を基に本人や家族、各関係者とも話し合いながら介護計画へ反映できるよう努めている。 | 職員は2~3名の利用者を担当している。モニタリングはカンファレンスにおいて毎月行われ、基本的に3ヶ月に1回、状況に応じて6ヶ月に1回見直し、担当者の意見や事前に家族の希望もお聞きしケアマネジャーがプランを作成し、変更後の報告は手紙と電話で行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別記録の記入方法は、都度改善を図りながら記録を行い、介護計画、実践への反映に活かせるように努めている。スタッフの自由帳も継続して行い、様々な視点からの案を実践に活かすなどの取り組みをしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | その時々に応じた本人の状態変化や、サービス提供の柔軟化が図れるようその都度スタッフで話し合い、様々なサービスが提供出来るよう取り組んでいる。 | | |

グループホーム柳島爐

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 運営推進会議や各行事を通じて地域の方たちとの接点をもったり、人脈を活かして様々な活動を提供してもらうなど、生活に楽しみがもてるよう取り組んでいる。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居時や入居後、その時々々の状況等に応じてかかりつけ医の検討、相談を家人、本人と行っている。本人の状態を家族と共に相談しながら、事業所側よりかかりつけ医と相談、指導を受け、対応にあたっている。 | 本人や家族の希望に沿い医療機関の選択をいただいている。ホームの協力医である地区の総合病院利用の方が半数ほどおり定期受診対応で家族がお連れしている。残りの半数の方は以前からのかかりつけ医を利用しており月1~2回の往診対応となっている。現在、常勤看護師と非常勤看護師2名のオンコール医療サポート体制を取り医師との連携を取りながら医療支援に取り組んでいる。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日常生活の中で、個人の状態把握、確認を介護士、看護師共に情報を共有し合い、必要に応じた受診やかかりつけ医からの指導、指示を仰ぐ等の対応をしている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時、病院側と連携を図り、情報の交換や相談等に努めている。できる限り総合病院の担当医や看護師、医療連携室等へ出向き、関係作りに努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した場合の対応を、入居時に説明している。本人の状態の変化に応じて、その都度話し合いを行い、その時々に必要な支援を模索し、対応にあたれるよう努めている。 | 重度化した時の支援について利用契約時、家族に説明している。重度化についてホーム内で話し合いを重ね利用者にとって何が最良かを考え併設の特別養護老人ホームへの住み替えも含め支援に取り組んでいる。協力医とも相談し状態に変化があった時の対応に備え、喀痰吸引等二号研修に3名の職員を派遣資格取得し重度化支援に備えている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | その時々で発生した事例に対し、マニュアル等を基にスタッフ同士確認し合っている。新たな事案に対しても、研修や各関係者等から情報を収集し、実践につながるよう取り組んでいる。 | | |

グループホーム柳島爐

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 定期的な防災訓練を行っている。他、定期的に机上訓練等も行いスタッフに周知している。水害に関しても計画書を整備し、机上訓練、避難訓練を計画し実施に向けて取り組んでいる。地区との防災協定を結び、会議等を通して話し合っている。 | 春と秋の年2回消防署員参加の下、防災訓練を実施し、秋には地区と合同で地域の方も参加しての訓練を行い、初期消火、通報訓練などを実施し利用者も全員参加し玄関まで避難している。水害に備え職員研修を行い、情報伝達の訓練を実施し認識を新たにしている。夜間想定では夜勤職員のみで行い、連絡網の確認と2人の夜勤者で出来る事を確認しての訓練を行っている。備蓄は食料、水、介護用品など、3日分が準備されている。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 入居時等聴取した人生観を基に、日々の生活を観察、接しながら様々な思い、考えを汲み取り把握、支援に活かせるよう努めている。言葉遣いや接し方など事例や研修等にて報告をし合い、スタッフへの意識改善にもつなげている。 | プライバシー保護について研修会や会議において話し合い、意識を高め支援に取り組んでいる。過去の生活歴や各利用者の特徴を把握し、言葉使いに気配りをし自尊心を傷つけないよう接している。居室内を見られることが嫌な利用者もいるので入室の際にはノックをした後声掛けに間を置くという工夫をしている。また、トイレ介助には気を配り尊厳を守るように努めている。呼び方は希望を聞き「さん」付でお呼びしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日々の生活の中での何気ない会話、様子から本人の思いを汲み取り、自己判断、行動に移れるよう促している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 個人の生活スタイルを把握し、可能な限り思いに沿った対応ができるよう、都度業務改善を行っている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 普段の生活、行事や外出等に合わせてスタッフと一緒に衣類を選定したり、整容に気を付けている。定期的理髪業者訪問や理髪店への外出、衣料販売への買い物に出かけている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 一人ひとりの嗜好や咀嚼力、人付き合い等把握、個々に応じた形態やメニュー作り、食席等を工夫している。食事の下拵えや配膳、片付け等利用者同士、またスタッフと一緒に行って頂けるよう努めている。外食へも出かけている。 | ほとんどの利用者が自力で食事ができ、状況に応じてキザミ等を交えて対応している。ホームでの生活で食事を最重点と捉え取り組んでいる。お手伝い、調理、買い物など、できることには参加していただき献立も利用者の希望を取り入れ、好き嫌いも考慮し調理を行い、職員と一緒に楽しく食事を取るようになっている。誕生日には利用者の好きなおやつを用意しお祝いしている。夏祭り、敬老会、忘年会には出前を取り楽しんでいる。 | |

グループホーム柳島爐

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 日々の食事摂取状況を観察しながら状態把握に努めている。様々な疾病により、食事の摂取が困難になってきた場合等は、各関係者と連携を図り、臨機応変な対応がとれるように努めている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 介助が必要な方、自立している方も基本、毎食後に口腔ケアを実施している。口腔内に異変がみられた場合は、協力病院等と連携を図り、治療や指導を頂きながら対応にあたっている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 個々の排泄状態の把握を基に、定期のトイレ誘導、行動による排泄意の汲み取り誘導を行い、トイレでの排泄を促している。また、身体レベル的に、自身でトイレに行けない方のトイレでの排泄支援も、状態に合わせた対応に取り組んでいる。 | 現状自立の方と一部介助の方がほぼ半数ほどで夜間ポータブルトイレ使用の方も数名いる。利用者に合わせ「そわそわする」等の特徴を把握し声掛けをしている。また、食事前後と中間に声掛けをして対応している。排尿、排便チェックリストを作成しパターンを把握し、情報を共有し支援に取り組んでいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食事メニューに野菜を多く取り入れたり、水分摂取の促し、体操や散歩で体を動かすなど日常生活の中で行える便秘予防に努めている。必要に応じてかかりつけ医と相談し、対応を検討してる。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の手で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 基本の入浴時間帯は決めているが、「一人で行いたい、熱い湯がいい、今は入りたくない、明日入りたい」など個人の意向を確認し、入浴支援を実施している。 | 1階はリフト浴、2階は広い檜風呂が設置され状態に応じて入浴出来るようになっている。基本的に週2回の入浴であるが希望に応じて3回入る方もいる。拒否の方もいるが毎日入浴可能な状況なので話の中で可能な時に入らせていただいている。季節によって、ゆず湯、菖蒲湯、リンゴ湯等を楽しんでいる。家族と1泊で温泉に出掛ける方もいる。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中帯でも居室で休みたい、TVをみたい、本を読みたいなど自由に過ごしながら、休息をとって頂いている。頻尿等により夜間の睡眠に障害がある方は、かかりつけ医と相談、検討し、対応にあたっている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個人の服薬情報を基に把握、確認している。薬自体は個々に薬箱にて管理を行い提供している。服薬することによる状態の変化を看護師と共に観察、把握し、必要に応じてかかりつけ医と相談、対応にあたっている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 生活歴等今まで歩んできた人生情報や、生活の中での対話からの汲み取り、スタッフからの促しなど個々に適した活動を提供できるよう取り組んでいる。製作活動では、地区の作品展に出品するなどしている。 | | |

グループホーム柳島

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 計画的に決めた外出支援の他、その時々で買い物やドライブ、地区行事への参加など外出の機会を設けている。家族での旅行や外出も、自由に行ってもらっている。その日の希望に沿えるよう努めている。 | 車イス使用の方が若干名おり、他の方は自力、歩行器、杖使用で歩ける状況である。天気の良い日には庭の東屋で外気浴を楽しんだり、近くの願気神社や周りを散歩している。年間外出計画により農業大学校や松代城址に花見や紅葉狩りに出かけ、「回転ずし」「麺類」等の食事を楽しんでいる。また、希望により買い物に出掛けたり、近くのホテルに「お茶」を楽しみに出かけることもある。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金は事業所で管理している。個人の希望や、スタッフからの促しにより、社会に出向き、買い物や食事等することによる購買意識をもってもらえるよう支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 手紙や電話のやり取りを、希望やスタッフからの促しによって行っている。携帯電話を所有し、自由に家族や知人と連絡を取り合っている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 個人の状態、状況や使いやすさ、気分転換等に合わせ、影響のない範囲で家具類の配置換えや危険防止措置を行っている。日差しの強弱に合わせ、カーテン類やよしずを設置。製作活動における季節に応じた作品を展示するなどの工夫をしている。 | 玄関を入ると天井が高く開放感が漂う共用部分が広がっている。食事テーブルが3ヶ所に分かれて置かれ食事の下準備のお手伝いをする利用者の姿が見られた。ホールは大きなソファの部分とテーブルとイスが置かれた2ヶ所用意され、それぞれテレビも置かれ十分な寛ぎのスペースとなっている。合わせて随所にイスが置かれ利用者の状態にも配慮している。壁には利用者の作品や行事の時の様子が紹介されている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 談話スペースやTV観賞、休憩場所を設け、自由に使ってもらっている。使い勝手の良さ、悪さをその都度検討し、居場所作りの工夫をしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時、本人、家族と相談しながら、居室内の物は自由に持ち込んで頂いている。思い出の品物や、後の生活を通して必要になった物、新たな思い出の品物なども自由に設置してもらっている。福祉用具も必要に応じて検討し、使いやすさや危険への配慮も行っている。 | 広い居室には大きなクローゼットと洗面台が設けられ暮し易さを演出している。壁面には飾り棚と大きな掲示板があり、家族の写真や誕生日のお祝いの色紙が張られ、思い出の人物や仏壇、テレビ、使い慣れた家具等も居室内に置かれ自由にのんびりと生活していることが感じられた。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレや居室、食事の配膳場所を表示し、声かけ程度で安易に判断しやすいよう工夫したり、居室内は、物の配置によって使いやすように工夫している。 | | |